

# 茅葺き文化に関する絵本づくり

団体名 ● 三好ゼミナール

代表者名 ● 三好伸子(人間科学部こども学科・教授)、山先詩多(人間科学部こども学科・3年)

## はじめに

私たちは茅葺き文化を子どもたちに伝えることを目標として、特定非営利活動法人石川県茅葺き文化研究会の方や、現地の方と連携して、茅葺き文化について学び、絵本づくりを進めている。

茅の一つであるススキは、「二酸化炭素を土に貯める」ため、ススキ草原は「土がとても肥沃」の特徴をもつ。また木は、「温室効果ガスである二酸化炭素を、炭素としてたくわえることで、空気中から取り除き、「涼しくなる」などの性質をもつ。このような植物性資材の活用は、SDGsの13「気候変動に具体的な対策を」のゴールを達成するために適しているといえる。現存する貴重な茅葺き屋根を守り、動植物と共存する里山の意味や、里山集落の人間関係を含む茅葺き文化を子どもたちに伝える必要があると考えている。

## 活動内容

### ①茅葺き屋根見学・聴きとり調査

事前学習として、巡る予定の能登半島の茅葺き屋根について調べ、特定非営利活動法人石川県茅葺き文化研究会理事長坂本義昭氏と巡る。

(6月13日：永井家、勝東庵、上時国家、阿岸本誓寺など)

### ②茅葺き紙芝居

『かやぶき屋根とどんぐり ―めぐるいのちのものがたり―』の視聴

街頭紙芝居師・庄内街頭紙芝居実践研究会会長の米田左之助氏による紙芝居視聴と、子ども向け教材に関する助言を受ける。

(11月8日 Zoom)

### ③蜜蠟ラップづくり体験会

親子で蜜蠟ラップづくり体験会を行う。

(10月29日 金沢泉丘こども園)

### ④アイシング・クッキーで茅葺き屋根づくり

(11月22日)

※同日予定の湯涌温泉江戸村での茅葺き見学は中止

### ⑤絵本づくり

## 報告

活動内容のうち①、③、⑤について報告する。

### ①茅葺き屋根見学・聴きとり調査

当活動は絵本の資料収集を目的として行ったものである。全国に三軒だけの、唯一今も人が住んでいる「笹」で葺かれた「永井家」で永井氏にお話を伺った。

以下が学生らの感想と、絵本に取り入れたい内容である。



永井家の前で

### 【永井氏にお話を伺った感想】

実際に家の中に入ってみるととても涼しく居心地がよかった。／次に住む人がもういないとおしゃっていて、こんなに素敵な家なのにもったいないと思ってしまった。／茅葺き屋根の家は地震に強い作りであると教えていただき、昔の人の知恵が「今」住んでいる人をも守っていると思うと伝統のすばらしさを感じた。／その家での暮らしや代々受け継がれてきたという深い話を知れてよかった。／実際に茅葺き屋根を見てみると迫力がありとてもきれいだなど改めて感じた。

### 【絵本づくりに取り入れたい内容・場面】

近所の方が手伝い合って修繕している様子(結の精神)やその後に食事を囲んでいる様子を取り入れたい。／茅葺きを知らない子どもを登場させたい。／本誓寺にあった桜やヨモギ、白いお花(釣鐘草)などを絵に入れたい。／自分たちで山に行き笹を刈り、お茶を飲みながら休憩している姿を入れたい。



本誓寺とその周辺の釣鐘草



蜜蠟ラップづくりの事前練習

### ③蜜蠟ラップづくり体験会

当活動は親子が環境について絵本や体験から学ぶ姿を観察することを目的として行った。

まず、既存の絵本を活用して使い捨てラップなどの問題を親子に紹介した。絵本の内容は、プラスチックゴミが、マイクロプラスチックとなり海の中に残る。これらが海洋の生態系に異常をきたし、漁業や観光業にも悪影響をもたらすなどである。対して蜜蠟ラップとはミツバチに巣からとれる「ろう」や植物性オイル、布で作ることができ、使い捨てラップの代わりとなるものである。蜜蠟ラップは洗って繰り返し使え、天然資材を活用しているため捨てる時も環境に優しい。これらの説明後、蜜蠟ラップづくりの体験を行った。親子一組に対して学生一人が付き、蜜蠟ラップの作り方、使い方を伝えた。

体験中の親子の会話から「蜜蠟ラップでおにぎり包もう。」と活用の期待がもてる声が続いていくも聞かされた。絵本を見ている親子は、海の中のゴミが亀に絡んでいる様子を見て「可愛そう」、「ごみいっぱいや。」と話合っていた。

この体験会から、直接体験の重要性に気づき、絵本活用が親子で環境問題について考えるきっかけとなることが実感できた。私たちが作る茅葺き文化を伝える絵本を見て、茅葺き屋根の特徴に気づきや発見があるように絵や文を工夫していきたい。また生活の体験につながるような、茅葺き文化の意味の伝え方を工夫していきたい。

### ⑤絵本づくり

能登半島における茅葺き屋根見学の際に感じた茅葺き屋根の素晴らしさや、聴き取り調査の際に学んだ結の精神を「近所の人が食事をしながら茅修繕の計画を話し合う様子」などとして絵本に取り入れて作成している。

### 今後の課題、展望

今年度の活動では能登半島の茅葺き見学などにより、茅葺き文化を伝える目的について深く考察することはできた。絵本には都会に住む主人公の子どもが茅葺き屋根の修繕の手伝いをするという描写を取り入れたいと考えている。しかし、今年度も学生たちが実際の茅刈りや茅葺きの体験が実施できなかったため、どのように描写すれば茅葺き屋根を修理する様子やその時の思いが伝わるのか、その部分の考えが詰まっている。来年度は、ぜひ茅狩りを体験してその場面に具体性と実感を盛り込みたい。

完成した絵本の読み聞かせを行って、子どもたちに伝えていきたい。

- 
- i. 『萱場』 vol.1 萱場研究チーム2018年7月15日 茅場研究チーム
  - ii. 『地球博士に慣れるピクチャーブック3 野生生物の生息地を守り絶滅の危機から救う：野生生物の生息地が破壊されている!』 2021年4月10日 カミラ・ド・ラ ベドワイエール (著) / 片神貴子 (翻訳) 合同出版
  - iii. 『かやぶき屋根とどんぐりーめぐるいのちのものがたりー』 発表日 2022年10月30日 企画：内藤小容子・長船裕紀 / 画：あらあいら / 作：よねさん